



会長の一言 会長 島田安夫

改元2年目、新しい時代が始まったかと夢膨らんだのも束の間、新型コロナウイルスが世界中を震撼させ、我々の日常を暗転させてしまいました。皆さま、その後いかがお過ごしでしょうか。心が痛み、不安が募るとき、どこに救いを求めれば良いのでしょうか。例えば、家族や仲間の存在が心の支えとなってくれるのかもしれませんが、それでこそ大切な「宝」ですね。

我々の同郷の仲間が集うふるさと会も、単に楽しく交流するだけでなく、互いの心の絆を深め、連帯感を共有することができれば、また違った価値を見出せるのではないのでしょうか。特別なことをしなくても、色々な機会を利用して顔を合わせる中で、十分実現できると信じています。微力ながら、会長2年目も精一杯頑張りますので、ご支援の程宜しくお願い致します。



そういう趣旨で各種イベントを開催し、参画する「ふるさと応援団」でもあります。

メイン行事は毎年9月第1日曜日に開催する「総会・懇親会」です。昨年の第17回総会は武元前会長から引き継いだ島田新会長の下で行う節目にあたり、約130名の参加で無事に開催しました。ジャズピアニスト守屋純子さんのステージや市の現況報告、恒例の抽選会や七尾まだら合唱等、七尾を強く



いしかわ県人祭(椿山荘)

感じるひと時が演出でき、更に輝閃の参加も良かったです。10月の同郷の仲間千人が集まる「いしかわ県人祭」は、華やかで楽しいイベントです。会独自で続けている企画としては既に30余回開催のカラ



在原製作所藤沢工場見学ツアー

オケ(年4回)、親睦ゴルフ会、そして、散策ツアーがあります。昨年は、七尾城ゆかりの畠山家の末裔畠山一清氏が創業した在原製作所・藤沢事業所と前田家と縁の深い鎌倉文学館訪問ツアーを行いました。

本年は新型コロナウイルスの影響で例年のような活動が出来るかどうか見通せませんが、工夫を凝らし進めて参ります。お楽しみに。(事務局)



秋の懇親ゴルフ会

最近の活動状況等

関東七尾の会は、能登七尾を地縁としたふるさと会です。ふるさと会は全国津々浦々にあり、自分が育まれた土地や風土に思いを馳せ、故郷を大切にしようという人々によって運営されています。石川県では、主に市町村毎に結成されていることが多く、加えて相互の交流や石川県人会とも繋がりもあり、更には県や市とのパイプ役として活動する中で、様々な情報を得ることが出来たり、人的ネットワークを築いています。



昨年の総会・懇親会

七尾から出て来て頑張っていますコーナー

我々の仲間、後輩がこの東京で逞しく頑張っています!! 各分野で夢を追いかけけている若者を応援して下さい!!

笹 哲志 (矢田新町出身、昭和58年生)

◇七尾高校、福井大学卒業後、京都工芸繊維大学大学院博士前期課程修了。修士課程修了後、株式会社荏原製作所*に入社。 (*荏原製作所は、ポンプ・タービン等の風力水力機械および浄水・排水処理等の環境設備を製造している。創立者の畠山一清は七尾城主畠山氏の末裔にあたる。) 現在、コンプレッサ・タービン製造のための原価分析および積算業務を行っている。

◇これまでに開発・設計・技術計画といった業務内容を経験し、培った技術知識を活かした合理的なコスト提案を行っている。社会のヒトとヒトとを結びつけるようなモノづくりを目指して、全体最適の目線を大切にしながら仕事を行うよう心掛けている。

◇趣味・特技は利き酒。最近のマイブームは金魚釣り。

◇株式会社荏原工リオット

コマーシャルオペレーション課

〒299-0267 千葉県袖ヶ浦市中袖2 0

email: sasa.satoshi@eetc.ebara.com



昨年未の忘年会を持っていくのが私です。

辻 誠心(つじ せいしん) (矢田町出身、平成3年生)

- ・東部中、七尾高校を卒業後、夢であった自衛官としての道を歩むため、**防衛大学校**へ進学、卒業。
- ・福岡県の幹部候補生学校を卒業後、練馬駐屯地に配属。その際、「熊本地震」の災害派遣にも従事。
- ・5年の自衛官勤務を経てあらゆる人との出会いや、石川県議会議員であった祖父(勝木菊太郎)の影響から、**練馬区議会議員選挙に初挑戦**。
- ・平成31年4月、初当選。現在1期目。
- ・「誠心」の名は、第76、77代内閣総理大臣であった**海部俊樹氏が命名**してくれたもの。
- ・小学校1年生の時に始めた剣道は今でも継続中であり、**今年令和2年に五段への昇段を目指す**。
- ・社会の厳しさに翻弄されながらも、『誠心誠意』をモットーに地域活動に専念。さらに活動の幅を広げていくため、日々奮闘しております。

◎LINE友達になってください！右下のQRコードを読み込んで頂くか、下記連絡先にご連絡宜しくお願いします！

〈連絡先〉

〒179-0081

練馬区北町

8-21-3-E306

080-1957-2758

info@tsuji-seishin.com



ターニング・ポイント

坂本 与市 (さかもと よいち)

元・北海道文理科短大学学長
(農学博士)
(能登島町出身、昭和9年生)

出自 能登島西端で農家の長男(あなか)として生れた。三ヶ分教場入学。中学卒業後は当然のように農学校へ進んだ。



「百万石の集い」でのワンシーン



七尾時代 新制七尾高等学校は、七中・七農・七商・七高女で構成され、農業部は徳田に在り、島出身の大型相撲選手が多かった。高下駄履いて一本杉通りを行くと街のチンピラは避けて通った。憧れの能登の都は食料不足だったが、多望な青春の始まりである。毎週、米3升を下宿に持

② → 参したが、多い場合は1升百円で買上げてくれる店もあった。百円で3つの映画館をハシゴした。その後、岐高農で学ぶ。

ターニングポイント いわゆる洞爺(とうや)丸台風は昭和29年9月26日未明、九州に上陸、日本海を縦走し津軽海峡で青函連絡船・洞爺丸を転覆させた。死亡行方不明合せて1055人。戦時を除けば日本最大の海難事故であった。能登にも壊滅的打撃を与えた、水田基盤を根こそぎ浚(さら)え、復旧見通皆無。私は農家後継のはずだったが、止む無く教員になった。「能登島町公立学校教員を命ずる。西部中学校教諭に補する・三級二號俸を給する」能登島町教育委員会

動機 金沢で岐阜大学(旧・岐高農)同窓会があつて私も末席に着座した。その際、金大の山本教授が末席の私を手招きしてくれ、恐れながらにじり寄って盃を頂戴した。山本教授は西金沢の豪農の息子で、「食糧増産こそ国家の急務!」と、ばかりに岐高農の門を潜った典型的な高農タイプ。そして「我ヤ、中学校にい〜いつまで居るがいや?昔から…師範出りや四十円、高農出りや六十円や!と決つたつたゲゾ!母校にあ『祈らんよりは培え!』と高らかに唱えたるうが!君あ〜今、何を培うとるガ?能登でえ〜一服しとるガ?ホンでも〜広い学芸とやらでも〜やつとるガか?」目は光っているから本気度は可成り高い!こうまで、けし掛けられては、我が青春の血が大いに騒ぎ、農の原点を極めるべく『渡道』決意の瞬間である。 ③

渡道 →④札幌郊外の小さな短大。学長は元・岐阜大学教授・樋浦 誠博士。クラーク博士の札幌農学校よ今一度と、張り切っていた。「斯く斯く然々、僕は北海道に行きたい!」、1週間後には簡単なハガキが届いた。「北海道は君を待つ!」早速、七尾線から北陸本線の大阪始発青森行に乘車、青函連絡船で津軽の海を渡る。七尾を出て2昼夜目、木造平屋の酪農短大があった。用務員姿の学長、失望は続いた。朝五時半起床で牛の糞出し。麦飯朝食後は飼料玉蜀黍(とうもろこし)畑でカルチベータを曳く馬の水先案内だ。眠い、臭い、汚い、しかも無給。何度も能登へ帰ろうと思った。「百姓も体験しないで、何が農学か?」学長の檄は噂通り手厳しかった。1年後にやっと研究室が与えられたが、学長の叱咤激励は、まだまだ続いた…、「東大出が論文1本書くなら、君は3本書き給え!それで、初めて同じ土俵に立てるのだ!」20数年後、第七代目学長に選任された。学長二期8年務め、もはや古希。八十坂を期に、半世紀の北海道を終了。三子が住む中心・横浜に老結婚生活を始めた。北海道には厳しい自然と人の掟があり、ドロドロの生活垢も溜った。また、人に躓き、人を躓かせたりもしたが、トータルで許容してくれた、感謝しながら稿を閉じる。拙著「北紫の掟〜わたしの北海道〜」より



馬の水先案内

でっかい祭りを体感しよう!

和倉温泉お祭り会館

当初 4月25日(土)オープン予定でしたが、その後延期となりました。(4/18時点)

七尾が誇る四大祭り「青柏祭」「石崎奉燈祭」「お熊甲祭」「能登島向田の火祭」の迫力を体感でき、大型スクリーンを活用した映像と音の演出で祭りの臨場感も体験できます。

■ 利用案内 matsuirimatsurimatsurimatsuri
開館時間 9:00~17:00
休館日 第2・第4水曜日、12/29~1/1
入館料 一般800円(団体720円)
小・中学生400円(団体360円)
乳幼児 無料
※観光情報エントランス(無料)
所在地 七尾市和倉町2部13番地1
(旧・和倉温泉観光会館リニューアル)
問合せ先 (一社) ななお・なかのDMO
☎ 0767-62-0900



集まらんかいねえ〜!!

関東七尾の会では、会員同士の交流促進を目的に、同好会を始めたい方を募集します。趣味や特技を同じにする人、興味のある人たちが自主的に集まり、楽しむ活動を会として応援します。



例えば、釣り、日舞、囲碁、書道、絵画、落語、民謡、音楽鑑賞、料理、等々…

お気軽にどうぞ! ^^♪

お問合せ先⇒末尾事務局へ



七尾市プチ情報(2020.3.31現在)

人口 51,632人
男24,519人(47.5%)
女27,113人(52.5%)
0~20歳 7,842人(15.2%)
21~64歳 24,406人(47.3%)
65歳~ 19,384人(37.5%)

関東七尾の会の皆様には、日頃より七尾市に対しまして、ご支援を賜り心より感謝を申し上げます。

七尾市ふるさと納税
令和元年度実績のご報告

寄付額 4億6,200万円

[問合せ先]七尾市役所商工観光課 ☎ 0767-53-3311

◇ 関東地区在住の七尾出身者及び七尾と関わりのある方が集い、「会員相互の親睦」と「郷土の発展への寄与」を目的に創立、一昨年15周年を迎えています。現在会員は約千名、県人会や各ふるさと会との交流等各種活動を続けています。

関東七尾の会

名誉会長: 武元 勇 会長: 島田安夫
幹事長: 木下嘉平 事務局長: 柿島由雄

事務局: ☎338-0013 さいたま市中央区鈴谷7-6-1-912 島田安夫宅
(柿島事務局長) 携帯080-5548-7714 ✉ kakitomo@wave.plala.or.jp
(事務局/島田) 携帯090-4076-2101 ✉ saita-shi-mada@mist.ocn.ne.jp